

## 環境調査結果のお知らせ

### 概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が最大13細胞/ml確認されました。

また、柱状採水（0～10mの海水をひととめに採水）した海水においても、アレキサンドリウム属が小筑紫中央で0.02細胞/ml確認されました。当該プランクトンは、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

**今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。**

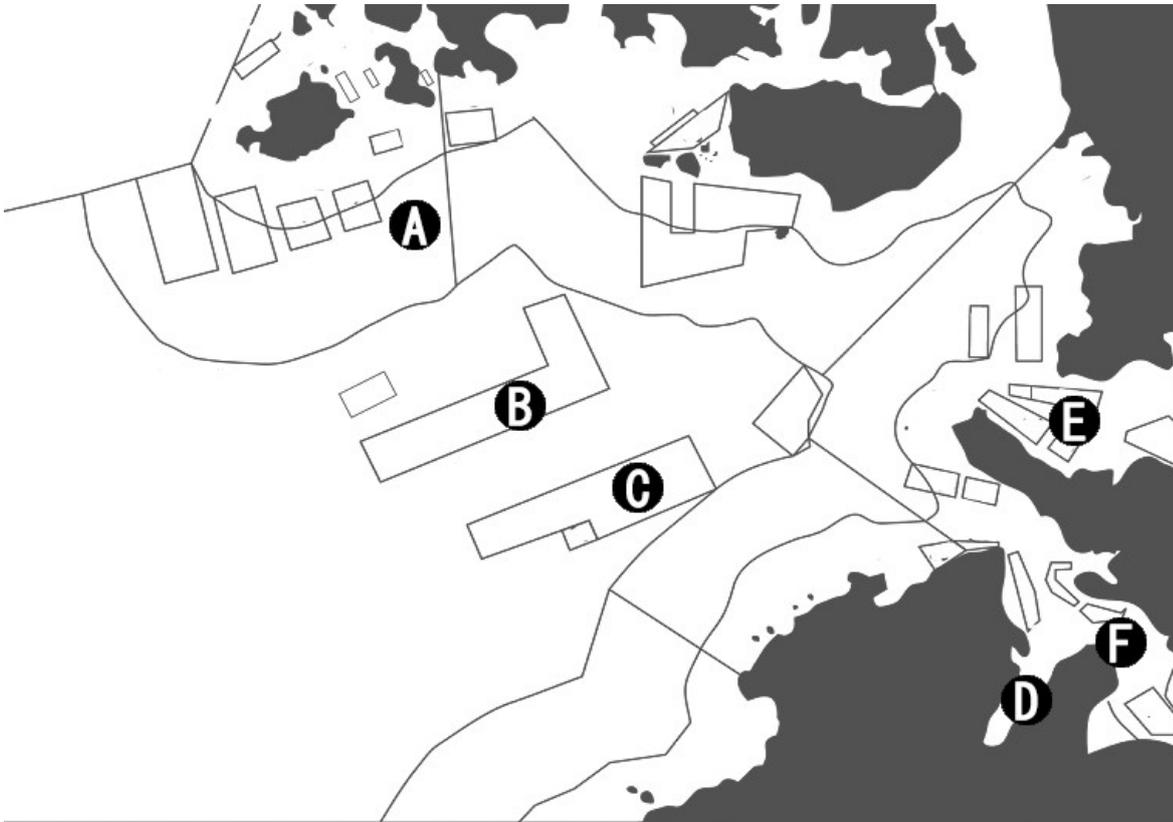
調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属
	(m)	(°C)		(mg/L)		
A 藻津 (-/36.6m) 【09:11】	0	16.9	32.8	7.9	0	0
	★ 5	17.7	34.6	7.3	0	0
	10	17.8	34.6	7.0	0	0
	15	17.7	34.6	7.0	-	-
	20	17.7	34.6	7.0	-	-
B 大島中央 (-/33.2m) 【09:18】	0	17.2	33.8	7.7	0	0
	5	17.7	34.6	7.5	0	0
	8	17.7	34.6	7.5	0	0
	★ 10	17.7	34.6	7.5	0	0
	15	17.7	34.6	7.2	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.9m) 【09:29】	0	17.8	34.5	7.4	0	0
	★ 5	17.6	34.5	7.3	0	0
	10	17.6	34.6	7.2	0	0
	15	17.6	34.6	7.4	-	-
	20	17.6	34.6	7.5	-	-
D 栄喜奥 (-/13.7m) 【09:49】	0	17.6	34.0	7.7	0	5
	★ 5	17.9	34.6	6.7	0	0
	10	17.7	34.6	6.6	0	0
E ヒロウラ (-/25.7m) 【10:11】	0	16.9	30.1	7.7	0	2
	★ 5	17.9	34.6	6.7	0	0
	10	17.7	34.6	6.7	0	0
	15	17.6	34.6	6.6	-	-
F 青瀬山 (-/15.7m) 【09:57】	0	17.4	33.8	7.9	0	3
	★ 5	17.9	34.6	6.7	0	13
	10	17.7	34.6	6.8	0	5
	15	17.6	34.6	6.6	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL : <https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津            D: 栄喜奥  
 B: 大島中央      E: ヒロウラ  
 C: 小筑紫中央    F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキシドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。